

「史蹟めぐりCコース」

1 学年・人数

全校生徒（計 54 人）

2 日時・場所

令和 4 年 11 月 25 日（金） 本校武道館，垂水市市木・海瀉方面

3 史蹟の名称・時代・特徴について

（1）名称・時代

- ▶ 西郷隆盛・勝海舟直筆の書：幕末～明治
- ▶ アカメンドン，田の神 5 号：民間伝承につき時代不明
- ▶ 新田（アヲダ）神社：竜宮伝説につき時代不明，島津義久の詩歌残る
- ▶ 耕地整理記念碑：大正大噴火（1914 年）以降
- ▶ 元垂水城：戦国時代（中世の山城，「たるみず」の地名の由来）
- ▶ 西福寺跡：江戸初期（垂水島津氏の墓地がある曹洞宗心扇寺の末寺）
- ▶ 子安観音：民間伝承につき時代不明
- ▶ 海瀉温泉：昭和 3 年掘削
- ▶ 江ノ島と公卿石：16 世紀末（秀吉が坊津に流した近衛信輔（ノブスケ）が訪れて名付けた）
- ▶ 江ノ島と昔話「江の島弁天」：昔話につき時代不明
- ▶ 海瀉造船所跡：1943 年 7 月から 1946 年 2 月（木造輸送船を建造）
- ▶ 安永大噴火（1779 年）の焼亡塔：大噴火以降（20 世紀初めに合祀によって建てられた菅原神社の境内にある）
- ▶ 才原金次郎翁之碑：1951 年 5 月建立（大正の初め，自家飼育に加え，貧農に対して子牛を預け，そして育った成牛を買い取るという「飼育牛模合（もあい）制度」を設け，農家の現金収入の道を開いた人物を称える）
- ▶ 第六垂水丸遭難者慰霊碑：1995 年再建（1944 年 2 月 6 日，9：50 分垂水港を出港した垂水汽船第 6 垂水丸 122 トンが乗客 700 人以上を乗せ転覆，沈没した。日本史上 2 番目の死者（547 名の名が刻まれている）を出した海難事故）

（2）特徴

本校から桜島に向かって進む北部を中心に，多様な時代に多様な人生や生活があったことに思いを馳せられるようなコースを徒歩でめぐる。この地域は稲作に向く場所が少なく，海や山，温泉などの恩恵を受けた史蹟を見るだけでなく，人物来訪や昔話，桜島大噴火による被害からの立て直しなど無形の伝承も感じることができる。

4 地域との連携について

垂水市観光協会の川崎あさ子さんの協力を得て、4年前にCコースは完成した。今年度は、垂水市文化財保護審議会委員の瀬角龍平さんの協力を全面的に得て、山田義之さんや川崎さんの3人の話を適所で聞くことで、理解を深めた。

5 工夫した点

「たるみず」という地名の由来となる元垂水城跡に登るまでに、水が豊富で水田が広がる市木地区を通るとともに、その水田は大正大噴火により降灰の被害を受け、そこから再び立ち上がり、現在の水田があることを理解してもらうように考えた。

元垂水城の麓から染み出る殿様水を見た後、水田が減っていく風景を見ながら、温泉地や江ノ島の由来、「江の島の弁天」伝説を知り、自然の恩恵を受けて人々が生活したことには思いを馳せるようにした。

海瀉造船所跡で、本市も太平洋戦争と無関係ではなく、木造の輸送船を作っていたという無謀な様子を理解するとともに、このコースの最終訪問地である第六垂水丸遭難者慰霊碑でも、戦争の最中の惨事であることを感じてもらうようにした。

最終地点までに、安永の大噴火の記録に触れ、大噴火に対する意識を高めるとともに、水田の少ない土地で、和牛の模合制度による生活を向上させた人物の話を聞き、災害や逆境の中でも、人は逞しく子孫やその魂を受け継いできたことを感じてもらった。

各史蹟を見て、総距離約16kmを踏破した。

6 取組の様子



7 参加生徒の感想

- ▶ 15kmの道のりを歩くのはきつかったが、普段車で通り過ぎる場所に知らない史蹟が沢山あって驚いた。
- ▶ 第六垂水丸遭難事故の話は詳しく知らなかったが、実際に慰霊碑を見て、亡くなった方の中に自分と同じ名字や、同じ地区の方が多くいて驚いた。
- ▶ 1番印象に残っている史蹟は「垂水城（山城）」です。登るのがとても大変でしたが、道が900年前に造られたと聞いて、とても歴史を感じました。私たちは15kmで疲れを感じますが、昔の人はもっとずっと長い距離を歩き、垂水に歴史を残してくださったと思います。そのことに感謝し、もっと故郷垂水を大切に思いながら生活したいです。
- ▶ 子安観音の風習について知り、このような風習を後世に残したいと思った。
- ▶ 高校生活最後の史蹟めぐりとおして、垂水のことをさらに詳しく知ることができた。これから先、就職などで垂水を離れてしまうかもしれないが、歴史が詰まった故郷のことをいつまでも大切にしたい。